令和７年度 第１回 荒尾市観光振興計画策定等委員会 議事録要旨

日 時：令和７年６月27日（金） 午後２時００分～午後３時３０分
場 所：荒尾市役所 43 号会議室
出席者：荒尾市観光振興計画策定等委員会委員 16 人 （別紙名簿のとおり）
事務局：観光文化交流課 課長 宮脇浩司、 同 観光推進室 室長 吉田政博
同 参事 中山和也、 同 副主任 山下裕貴子

１．開会

２．委嘱状交付

机上配付にて委嘱状の交付を行った。
事務局が、新任委員 9 人を紹介するとともに、前任期では荒尾商工会議所所属として参画されていた丸尾委員について、今任期から荒尾市観光協会所属として参画されることを報告した。

３．委員長及び副委員長選出

荒尾市観光振興計画策定等委員会条例（以下、「条例」。）第５条第１項の規定に基づき、委員の互選による委員長の選出及び委員長による副委員長の指名を行った。
委員長について、事務局提案として学識経験者として参画している室岡委員を推薦し、承認された。室岡委員長より、就任のあいさつが行われた。

- 観光は総合産業であり、まちづくりそのものだと言われている。まずは荒尾市が住みやすい街になること、そして訪れた人がよかったと、そして最近では働いている方も働いてよしと、そういう観光、荒尾の観光であるように、皆さんの英知をいただきながら少しずつ進めていきたいと考えている。
- 各所属団体からの委員、市民公募の委員もいる。それぞれの意見を吸い上げ、会議の後にはフィードバックいただきたい。
- 今年度は新たな計画策定の年と聞いている。第 3 期計画はコロナ禍の影響を受けた計画でもあったのではなかろうかと思う。今の状況に即した、新たな観光計画をこの委員会で進めくとのことなので、併せてよろしくお願いする。

副委員長について、室岡委員長より、一般社団法人荒尾市観光協会から参画している丸尾委員が指名された。丸尾副委員長より、就任のあいさつが行われた。

- ６月に、山代前会長からバトンを受け取り、荒尾市観光協会会長に就任した。
- 室岡委員長がおっしゃったとおり、観光はすそ野が広いと感じている。これを機に、いろんな業態のことを知り、荒尾観光に一役買いたいと考えているので、よろしくお願いしたい。

４．議事

事務局が、条例第６条第３項の規定に基づき、過半数の出席があるため会議が成立していることを報告した。
事務局が、会議の趣旨を説明した。
委員長が、条例第６条第２項の規定に基づき、会議の議長として議事を進行した。議事は以下のとおり。
（1）令和６年度 成果検証について

事務局が、資料に基づき説明したのち、意見交換が行われた。意見等は以下のとおり。

【数値目標及び基本方針１に関すること】

○　宿泊観光消費単価について、R6 が大きく増えた要因について、再度説明を願いたい。

事務局　令和 6 年度以前は、“宿泊飲食支援キャンペーン”として実施していたクーポン販売による誘客キャンペーンのクーポン利用者を対象にアンケートを実施していた。クーポン利用者につき安価に旅行をされる方、コロナ禍につき近場の来訪者、ということから単価が低かったものと考えられる。現在の調査方法は、宿泊施設に回答二次元コードを設置することで、旅行者から回答を募っている。調査方法変更により、県の単価に近づいたと考えている。

○　子ども科学館入館者数について、指定管理者変更とは何か。

事務局　子ども科学館運営は、荒尾総合文化センターの指定管理業務の一環となっている。令和 7 年度から、指定管理者が、これまでとは別の事業者に変更となった。指定管理者の選定は 5 年ごとに行っている。新しい指定管理者の裁量の中で、小学生以下は無料という入館者増加のための施策を行っている。

○　宮崎兄弟の生家について、名物になるような珍しい植物等があるのか。
また、全体的に目標値がかなり高く、実績がだいぶ下回っているように見受けられるが、5 か年計画を作る際に、5 年間を踏襲し達成できるということでスタートしたが要因があって伸び悩んだのか、もしくは目標設定が高すぎて伸び悩んでいるのか。

事務局　生家の植物について、春先に花が開花する。孫文が来訪した時代から咲いているとされる梅の花。宮崎滔天が持ち帰ったとされる牡丹。このような植物に関連した牡丹茶会やいけばな展等のイベントも開催している。
目標値について、例えば、万田坑入坑者数に関しては、世界遺産登録年度は 11 万人となっている。宮崎兄弟生家・資料館入場者数に関しては、ドラマ「花子とアン」で取り上げられた際増加した入場者が目標値同程度。当時の数値を参考としている。

○　湿地センター開館 5 周年記念イベントについて、具体的にどんなことをされたのか伺いたい。

事務局　写真コンクールの表彰式、マジャク無料配布、テーラー乗車体験、トークイベント、ワークショップ等が行われている。

○　生家は孫文に関連のある施設だが、インバウンドの影響はいかがか。
また、宿泊者数における修学旅行について、荒尾市内のホテルで 174 校ということか。

事務局　生家におけるインバウンドの数は多くないが、国別でみると中国の比率が高い。
宿泊校数は、ホテルから集計している。

【基本方針２に関すること】

○　観光協会の情報発信については、数字に出ていると思うが、この数値が来場者に結びついているのかという点が、必ずしもそうではない。池田委員からも話あったが、数値目標をしっかり設定するということが重要だと思う。

○　観光アプリ「おでかけあらお」で、観光に来た方はどういうメリットがあるのか。

事務局　カテゴリごとの情報発信機能、イベントに活用できるスタンプラリー機能やクーポン機能等が備わって

おり、イベントやキャンペーに活用するもの。DL しただけで何かをもらえるという取り組みは、現在実施していないが、おもやいタクシーの予約はこのアプリ経由でできる。しかしながら、観光客にアプリを DL させることはハードルが高く、本アプリを使用した効果的な情報発信は難しいと分析している。

○　アプリ登録者数増加の取り組みについて教えてほしい。

事務局　導入直後に、登録増加のためグリーンランドとコラボした取り組みや、バレンタイン期間のクーポンキャンペーン等、市内の事業者と連携して実施してきた。何年か継続して取り組んだが、観光という側面から登録される方は伸びなかった。

○　情報の更新は必要と思う。

○　高齢者は、アプリはよくわからない。入れたいけど入れられない。入れても使えない。簡単にできる方法がいい。

【基本方針 3 に関すること】

○　ARAOpay について、（プレミアム付商品券の）割引率が 30%から 20%になったのはなぜか。

○　プレミアム付商品券について、2 年前はコロナ禍における消費喚起が目的だった。現在は、財源となっている地方交付税を踏まえ荒尾商工会議所と協議の上、率を決定している。今年度も 6 月議会において、昨年度同様の率で実施することとなった。消費喚起は行政としても必要と考えており、パートナーである荒尾商工会議所と協議しながら決めていく。

○　KPI 指標について、おもやいタクシーの年間利用者数が設定されているが、R 5と比較し R6 は減少している。おもやいタクシーのオペレーターとして対応しているが、肌感として、帰省客や万田坑・刀剣鍛錬所目的の観光客は、増えている印象である。観光で周遊するという点では、増加していると感じているものの、日常利用者に埋もれ、この数値には出てこない。例えば、居住地を市外に設定しているユーザーを集計する等、日常利用者と切り離して集計すると指標にしやすいのではないか。今後協議したい。

○　ARAOpay について、熊本市・合志市にはこういった制度はないので、荒尾市は頑張っていると感じた。

荒尾駅周辺について、空き家が多いと感じた。資料にもあるが、賑わいづくりについて、今後の取り組みを教えてほしい。

○　広域的に街づくりを行っている団体と連携して荒尾駅の待合室をリノベーションし、福岡市の事業者アンドローカルズと提携し、今あるものを、あまり費用を掛けず再生していく事業を行っている。また、荒尾駅の駅舎について、バリアフリー化が不十分なので東西自由通路を備えた建て替えを JR と協議している。荒尾駅は熊本の北の玄関口であり、観光においても優位性はあると考えているので、ハード面の整備は必要。現在、荒尾競馬場跡地「あらお海陽スマートタウン」に、商業施設トライアルが開業し賑わっているが、同エリアに子育て支援施設・道の駅を建設中。今月、道の駅として登録されたところであり来年６月開業する予定だが、次期計画には新たな立寄り場所として入れ込むことになる。グリーンランドからの立ち寄りも含むが、運営事業者は年間 102 万人の試算。道の駅、グリーンランド、荒尾駅という拠点間の二次交通による周遊性向上においては、大量輸送のバス、それを補完するタクシーという形で、観光客の移動を支援できるのではないかと思う。また、エリア内に温浴施設付きの宿泊施設という条件で、事業者を募集している。街づくりは単年度ではできないが、徐々に今までとは違った切り口から取り組んでいる。

室岡委員長（総括）　情報共有の在り方、アプリの在り方、賑わいづくり、周遊性、そして数値目標の在り方について意見が出た。特に数値目標については、国・観光庁も、観光客数というより観光消費額、すなわち域内でどれだけ経済循環を回していくのかという点に軸足を置いている。観光消費額の数値の取り方をリバイスしていき、今の実態に即した形で進めていくということなので、次年度以降もしっかり取り組んでいただきたい。

（2）令和 7 年度　実施計画（案）について

事務局が、資料に基づき説明したのち、意見交換が行われ、内容について承認された。意見等は以下のとおり。

○　この委員会の立ち位置について伺いたい。会議の中身について、荒尾市議会に報告はするのか。

○　この委員会は、条例に基づいて設置しているので、設置については議会の承認を得ている。法律に基づいて行うものではないが、次期計画を策定したのち市議会に報告は行う。

○　観光の構想を練っていくということあれば、市長・市議会と一丸となり取り組んでいくことがスムーズにいくのではないか。荒尾市を盛り立てていく意見が反映される形をとってほしい。

事務局　計画策定において、委員会での協議がもとになるが、市長含め、計画内容を見る場がある。それを踏まえ、最終的に策定する流れになっている。

○　おもやいタクシーについて、1 日あたりの利用者は 40～50 人程度なのではないかと思う。2 台では賄えないと思うが、今後台数を増やす予定はあるのか。

○　おもやいタクシーは、ＡＩで最適ルートを出すという点が特徴。利用者が増加すると、待ち時間が延びる。そこがキャパオーバーになれば、稼働台数を増やす、1 台当たりの乗客数を拡大する等、見直す必要がある。

○　観光において、宿泊・飲食・交通が重要と思っている。先日、大牟田で接待をしていたが、代行が 2 時間待ちだった。民間の努力だけでは観光には結びつかないのではないかと考えている。この点の対策がないと消費額は伸びないのではないか。ホテル滞在では消費はしないので、夜の交通は検討していただきたい。

○　事業者の人手不足という課題であると思うが、現場の課題をどういった形で解消できるのかということを新しい計画に落とし込んでもいいと思う。懸念点等をテーブルに出して、どういった事業を進めていくのかということを計画に反映させるべきだと思っている。

○　自動運転バスを延長していくのはハードルが高いのか。

○　昨年度、産交バスと一緒に試乗会を実施した。昨年度までは国の補助金が 10 割、今年度からは自己負担 1/5。14～5 人乗りの EV バス 1 台が 1 億円程度かかり、維持管理費も発生する。荒尾駅から競馬場跡地、そして競馬場跡地からグリーンランド・シティモールという想定をしていたが、行政だけでできるものではない。人手不足を解消するための自動運転。地方こそ自動運転バスが必要だとも感じており、一つの策ではあると思っている。

○　法律的にハードルは高くないのか。

○　細かい問題として、何かあった時、責任はメーカーにあるのか、オペレーションにあるのかという点や、保険はどの範囲まで適用されるのかという点もある。国のガイドラインで示している部分もあるが、参入のハードルは試験的な部分が大きいと思っている。

室岡委員長（総括）　市長・議員への共有、夜の賑わいや交通に関し意見が出た。交通は、多くの地域でも課題と捉え

られている。次期計画策定に向けて協議していきたい。

（3）「第４期荒尾市観光振興計画（仮称）」について
事務局が、今年度予定している「第４期荒尾市観光振興計画（仮称）」の策定スケジュール及び策定に向けた調査項目を報告し、調査について協力を依頼した。

５．その他
情報共有の場を設けたのち、事務局から今後のスケジュール（会議録確認依頼、出席手当、次回委員会予定、観光ポスター配付）について事務連絡を行った。情報共有は以下のとおり。

池田（明）委員　荒尾市観光協会から、７月より、くまモン・マジャッキーモチーフで特産品をＰＲするご当地キーホルダーを発売する。アクリルスタンドにもなる。まずは、まるごとあらお物産館にて、カプセルトイ形式で販売する。

事務局　明治日本産業革命遺産が世界文化遺産登録 10 周年を迎えるにあたって、各地で記念イベントが予定されている。全体イベントとして、カードラリーや東京でのシンポジウム。三池エリアのコラボイベントとして、7 月の登録日前後に石炭モチーフの給食提供、9 月に九州国立博物館でのパネル展が予定されている。天草の崎津集落含む熊本県内世界遺産のコラボイベントとして、重ね押しスタンプラリーを行う。荒尾市単独では、11/3 鉄道敷を活用したイベントや市内外で各種パネル展を検討している。

下川委員　7/1 から、高齢者バス代無料という誤情報が発信されている。注意いただきたい。

６．閉会
事務局が、閉会を宣言した。